

令和3年 ふるさと教育 取組事例

学校名	出雲市立高松小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な学習 の時間	「私たちの浜山」	地域住民 井上恵助の墓 浜山公園 浜山湧水群
ねらい	<p>(1) 井上恵助に関する高松地区の各場所の見学をとおして植林するための苦労や工夫などを調べ、現在の私たちの生活にも生かされている大偉業であったことを実感させる。</p> <p>(2) 先人への感謝の気持ちをもたせるとともに、自分たちの郷土に誇りをもたせる。</p>		
<p>1 取組の概要</p> <p>1) 地域の偉人「井上恵助」について知り、調べたいことを話し合う。</p> <p>2) 松林、湧水群、お墓など、恵助に関する場所についてフィールドワークを行う。</p> <p>3) 「浜山を守る会」の方のお話を聞いたり、「恵助音頭」を教わったりする。</p> <p>4) 分かったことや感じたことを新聞にまとめたり、学習発表会に向け伝えたいことを整理したりする。</p> <p>5) 学習発表会で、保護者・地域の方に恵助の偉業とふるさとのよさを伝える。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>1) ふるさとの「ひと・もの・こと」に実際に出会う体験を大切にする。 実際に見聞きした体験によって得られる発見や疑問などを大切にし、子どもたち1人1人がふるさとへの愛着や誇りを高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜山フィールドワークに出かけ、浜山湧水群やお墓、顕彰碑、松林などを見る。 ・浜山を守る会の方からお話を聞く。 ・地域の方から恵助音頭を教わる。 <p>2) 学習したことを発信する場を設ける。 学習を通して学んだことや考えたことを新聞にまとめたり、学習発表会で学習の成果を劇で発表したりすることにより、児童が「学習したことや自分たちの思いを保護者や地域の方に伝えたい」という思いをもち、ふるさとへの貢献意欲を高めることができるようにする。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>1) 児童が意欲をもって、主体的に取り組む単元構成を考える。 児童が気付きや疑問、調べてみたいという気持ちをもてるように資料提示の仕方を工夫し、学習活動が継続するように単元計画を工夫する。そのために過去の実践事例を参考にして現在の子どもたちに合った活動内容を学年部全体で話し合って決める。</p> <p>2) 実際に見聞きする場をつくることで、学ぶ意欲の向上をめざす。 保存や継承のために取り組んでおられる地域の人から話を聞いたり、偉人に関する実物を見たりすることで、なぜだろうと疑問をもったり、もっと知りたいと意欲を高めたりし、学ぶ意欲の向上につなげる。</p> <p>3) 地域の発展に尽くした人物について発信するために適切な方法を選択する。 見学したり、調べたりしたことについて、わかったことに加え「自分たちにできること」という視点をもって新聞にまとめることで、必要な情報を整理して、読み手を意識しながら新聞にまとめることができるようにする。</p>			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- 1) 地域の方から、地域の偉人について直接話を聞いたり、地域に残る実物を見たりしたことによって、ふるさとに興味・関心をもつ子どもが増えた。
- 2) 「井上恵助の功績を伝えたい」「井上恵助の生き方を見習いたい」「浜山公園を大事に使いたい」など自分たちにできることを考え、学習を実生活に活かそうとする児童が増えた。
- 3) 見守り隊やボランティアなど学校に関わってくださる方々をはじめとして、地域に支えられていることに気づき、感謝の気持ちをもつ子どもが増えた。

（学力育成の視点から）

- 1) 地域の偉人について調べる活動を通して、自分たちのふるさとに対する関心が高まり、社会科や道徳など、関連する学習にも意欲的に取り組む姿が見られるようになった。
- 2) 見学や調べ学習を通して学んだことを新聞にまとめる時、読み手を意識して分かりやすい伝え方を考えたり、興味をひくような工夫したりするようになった。
- 3) 自分が直接見聞きし、感じたことなので、より意欲的に「調べる」や「まとめ」「発表」「ふり返り」などの学習活動に取り組むことができた。

4 課題や今後の展望

- 1) 自ら学習課題を見つけ、調べようとする子どもの姿が見られた。しかし、調べ学習をする際に資料が少なかったり、内容が難しかったりするため、教師主導で知識中心の学習になり、子どもたち主体の調べ学習が十分行えなかった。今後は、地域のコミュニティセンター等と連携し、資料収集やゲストティーチャーを紹介していただく等、ふるさと学習が継続できるようにしていく必要がある。また、コミュニティセンターを通して地域の課題やニーズを知り、学習に活かしていくことも有効だと考える。
- 2) 学習したことを新聞にまとめたり、学習発表会で学習の成果を発表したりしたことは、ふるさとへの貢献意欲を高めることにつながった。さらに今後は、学習の成果物をコミュニティセンターの広報に載せてもらい地域へ発信する機会をつくるなど、子どもたちの郷土愛をより多くの人に知ってもらえるような取組を行っていきたい。



フィールドワークで顕彰碑を見学する様子



井上恵助音頭を習う様子



学習発表会の様子

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

（このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。）